

十編とひん見み八は

松野
勝院

南總里見八犬傳第九輯卷之八

東都 曲亭主人編次

第百六回 青海波と牽て景能稻村より来る
黒闇夜と犯して曼讚信館山ふ走く
却説里見義實主の又姥雪夫婦ようち對ひ。我方僅解も示せでど。顧べ東
西皆因あり縁あり。就てあらぬ事へ與四郎が朴刀と音音が眉尖刀を携え。升も
亦出處あらず。猛火の中ふ死を免れて。身と這山ふ置れ。相應てく。廻器械を極
亦伏姫の亡魂の授け。狹と向れ。與四郎額と衝て。左凝ひ。理りて。這朴刀不可。
裏ふ武藏の戸田河原よ。両個の兒子力二尺八寸。首級と情々地ふ奪會て。荒芽
山へ赴け。折身の護ふ携へ。當夜白井の寄隊と防ぎ。箭種も既ふ竭だ。又
是をすそ幾個歎近く敵と砍拂う。躊躇猛火が身を焼く。死まきを折までも尚

この刃やなえを放たすさず。我身と俱ともに這まつ御山みやまの領りょうて置おきれけん。その折おりより有あり。皆是神女かみめの靈れい。應あり。とくべ音おとね音ときも亦さきひそむ。早裏はやうらを煉馬れんまと没落ぼつらくの折駿駒せき馬ばと俱ともに那眉尖刀なびせんとう城じゆ。賤せん妾わらわがま親牽おとせぬぬあう。推しの乃のもあそ。上毛じょうもう。隱宅いんたくふ來くわて在あ程み。身みの護まつりふ藏くわ措あわ。又那白井しろいの寄隊よせだと防よけだて。あの眉尖刀まひせんとうの銳金鉈えいきんぱも聊まよ銚さわ銘めい。伏姫ふくひ神じんの宣助せんすけ也よ。與四郎よしろうが朴刀ぼくとうと此彼同そなわド奇き特とく侍し。余のる御ご室むろ。大江主おほえぬし。今日けふ上の御ご登山さんざんの折障せつじょう尋たずあまを對治たいぢせんせんと。單身たんじん出でて負うふ。與四郎よしろうも亦さ推續すいじゆて麓はづか路じ投とうてうそそと。有あ轂そ繫と心こころとときて。非除ひじゆ老女おとめの果敢かくさんかくさんととあ。夏なつの要よう達たどととあ。土赤どせき惣そう做せいを賊徒ぞくと。一個ひととも轂そを捕つかなな。と思おもふ心こころ紫し身みと料りょうら。あの眉尖刀まひせんとうを携おひ。鳥許とりゆきと思おも召めれけん。寔まこと小鳥許とりゆき。口くち吻くちととも笑わらきと袖そでりと急きつふうち掩かづふ。老樹おきゆの花はなは脣くちびる。薄うす々うすを聲こゑす。實まこと言い葉はの男おとこを義ぎ實じつ感かん心じん淺うぶ。其その處ところて又宣あらわす。思おもふ優やう。立日音たちひのとねが用心こころ。這夫まつて這妻まつ。現あらわ一對ひとくわい忠ただ。

魂義瞻。今世あると得さ。就て若们が両個の媳婦曳もとやらん。早節と要ん。
开い兒子们も那里あ在るや。と向れて音音へ歎しげ。隨即答をす。御爾他們も
賤妾と惧ふ。那樹下までまわり一がど。御免と蒙ら。一族渾て見參ふ。入ります
んれ無礼すべ。と思ふよりそ推止め。かん目前へぬまよ。とひと義實アキラをも
ゆき立も疲れけん。そが兒子とも這方カタ召す。けりもうあくも快々と仰ふ音音ら。阿と忘く。
身と起つて遼ヨシく。併の樹蔭ツリノイシ退する。程トキもあくび曳アゲを單節と。両個の孫兒と佯
ふ。舊處アラシマツへて來。大家程トキと並坐して。義實主ミサキヌと辨見アハタケル。當下親兵衛チンヒンエイ找ミツ
出。老侯エラの尚示ミタマシ。他們アラシマツ則トキ音音ヨウヨウ。媳婦アキラ十條力ジツヂク力二尺八リツハチ妻アガけ。曳アゲを單節
姊妹アラシマツ。兒子アラシマツの後アヒタの力二郎リツラウ。八尺ハチをひき。と呼えあづれば與四郎ヨーラウ。もせをまく。也アリ。妹アラシマツの夫アヒタ。程トキふ音音ヨウヨウ。両個の孫兒の頭アヒタふ。両をと植アシテ額アヒタと衝アタマく。俱アラシマツ千歳チサザイとぞ唱アヒタけ。小
程トキふ義實主ミサキヌ。這四個の母アラシマツと子アラシマツと。からくと見つ。宣アヒタき。よ曳アゲを單節と。若们アラシマツ

再生の奇特既と與四郎音音が告ふありて具ふ知れり。寔是が天鑒衍也。若們婦
妹孝順也。よく姑ふ仕へ委へて這應報あん。且力ニ尺八遣腹の事あらを知
らでを期と過と安産せしゆく奇異とひそべ。今よりて與四郎音音を花咲
翁も又花咲の姫も喚ん然びこそあれ若們も又是枯樹の花嫁ゑれも憐む。良
人ふ後れや。青年ふと嬪婦ふそん。倘この眞愛ひ微りせば得てわらひ子どめ牛す。
倚伏ハ糾繆ホ仰。哀むびとだ。猶ダニ矣。そも若們が兒子をよ両個をよ怜恤
像へ年十許ふるん折我孫達の陪從ふせん。舅姑共侶ふ瀧田ふ參て扶持を受よ。
城内の大江親兵衛グ祖母妙真も在る。詞敵ふよろん先よくおの意を治
よかと懇ふ仰られ。曳き單節の感涙の脱落を押へて共侶よ頭を抬げて稟をさう。
世不有これ御懇命數々身は餘る。一家の幸とまうえも猶憚り侍あり。皆
是神女の御引接也。縁一あれびぞ大江の和子は餘慶を受て歎ひ。駄馬の尾ふ附

たる蝶の千里不到ふ似よん。故主で侍る道徳即ち。まご見参ふ入る。併ふ升ぐ
家僕の宅眷も。我們不惶うも。僕の見と賜ひも。面目あまて今やふ影護く
も侍るか。とべ亦與四郎も。音音も俱ふ稟奉る。媳婦們が多えあひるどく。時宜も
あれと道節们。先よもな見參。寔は惶うひひ。とく義實主推禁也。否賞
罰の失敗ふよく。我ハ只若們。忠信節義を賞まひ。微賤とも數々譬言。不
道節们七大夫のひ。我照文も。て幾番欲招をよまく歎き。かど。他們の俱ふ固
辯ちうて。人具足せん。折もとく。ゆもあまく。招もとて親兵衛仁を誠ふ得方の
時。すむ。夫仁義へ行ひ。虧く。も。見れど。就中仁を根柢と。那竹の節も。則
仁と根とて。餘の七行。各節。然べ孝悌忠信も。又義も。礼智も。仁も。けれ。そ。德聖
至り。ある。故ハ。古の一人。漫讀信の仁先出世して。忠孝義信。礼智も。慳も。皆。這
仁由之の三差こそ異え。姥雪一家も。俱ふ漫讀信の仁。由て。その忠義節操の応

報する。我聖人あまざれが茲か二と做ぬ。不用意かと仁を發く方。侥幸かうと道
理と盡して諭しゆ。與四郎音音。首曳も單節も。這它的のもの推並て感嘆の外す
せり。そが中ふ親兵衛の額あけ。とあちく老侯の稟。每う目今仁字の尊諭。尊く美
び。と。何。で。臣。を。も。づ。る。當。ら。ん。壁。書。那。鼠。璞。の。如。く。名。の。同。あ。き。も。物。異。最。恥。く
外。就。て。那。南。弥。六。と。ち。ゆ。え。う。艦。砲。見。既。よ。隊。六。と。招。了。矣。素。生。見。れ。ど。尚。詳。み
ら。爲。義。也。那。奴。も。拷。向。仕。ん。狹。聞。召。る。え。も。と。詞。急。迫。く。向。ま。せ。義。實。听。ち。
領。を。あ。ひ。と。有。理。左。余。右。と。ち。ら。紛。れ。て。他。が。事。ふ。及。ぎ。る。を。親。兵。衛。徐。ふ。尋。向。ね。與。四。郎。音。音。
叟。ふ。單。節。ハ。解。兒。们。共。侶。ふ。寵。田。の。城。ハ。我。領。て。還。ん。姑。且。後。方。ふ。退。じ。て。下。向。の。折。を。驚。ね
か。と。仰。ふ。畏。む。老。夫。婦。兩。個。の。嬪。婦。ハ。兩。個。の。兒。子。と。先。よ。立。皆。共。侶。ふ。近。樹。下。お
退。じ。て。叟。果。る。ま。を。跪。坐。る。登。時。大。江。親。兵。衛。樹。下。ふ。鞍。系。置。あ。る。生。口。荒。磯。南。弥。
六。が。身。邊。出。我。も。ち。對。ひ。を。之。艦。砲。兒。南。弥。と。や。り。ゆ。く。汝。當。初。當。幽。洲。崎。の。俠。

客之ける。毎垢むく立き外孫あいそをまつ。神餘の子孫めいそあるより。憂鬱うゆくを分わら死地しじを踏ふ。昔在むかし在いた垢むく立き行はて光弘みやき主ぬしを犯はる。辜こぶを償たんを欲ほりせせ。然しかりもあるをりをが。理義りぎも邪正じよせいも思おもふ。逆賊ぎゃくぜき素藤すとうが與よ我老侯おじこうを犯は。一馬いちまと母おやせの甚麼ごんめいを。實じつは神餘じんよの為ためと思おもべ。九西郎くにしろうに説薦いせん。稻村殿いなむらでん義成ぎせいへ訴稟そひ。恩祿おんろく乞こひまつづ。茲これ心こころのづづ。欲ほり。愚ぐる内丁ないぢょう相似おなじ。取とりもる。白物しらものを。かる。恁のんても陳ちんまう。ある。と連つづり。問たずき。南弥六ろく。羨うらやまする頭かしらと稍抬さほたくて。小可こが無学むがく俗骨ぞくこつ也や。血氣けつきの勇いさを旨しとする。弱冠よがくの初はじより。俠けいけいと磨すり。意いを立て。みづから許ゆして。世の豪傑ごうけつ。と思おもひ誇ほり。井中いのなか。蛙かえる似そる。淺智短才せんちたんさい。後悔ごひ。脇わき。噬くわども及およ。鶴累和君つるるわ。殴うれ。折疼楚しゃく堪こら。逃迷とうみ。峯ね上方うへ走はる程てい。那姥なつま。姥なつま。雪ゆき。うち。翁おきな。撞つぶ見み。而が。捕つか。之の。撲傷うつ。より。進退しんたい不ふ便びん。命運めいゆん茲これ盡つくる。きん。縫ぬい。縫ぬい。新しん。而が。恩免おんめん。請うけ。稟うけ。赦ゆる。炎大辟えんたいへき。罪戾ざいり。事こと何なにせん。死死。も亦また。恥はず。代だい。只ただ速はや死死。ん。と。之の。傷いた。樹じゆ。觸ふれ。頭かしら。摧さい。死死。せん。親兵衛しんべいえ。

と牽禁り。それ南弥六狂の歎賞罰の上に在り大辟不赦の罪人きよ不次心不死をも
とも。自殺と許する。兎心を鎮めし听ねば汝が那定包謀られ。不測の罪を釀する。
外祖洲崎安堵云。本性ふ似たりと思ひ歎我の當年安堵云と俱ふ當國の俠良す
け。松木樺平の苗孫べ然が我父山林房ハ。大父の汚名を雪んを。身を殺して仁を做
あへより。我身ふ至て思ひけれど天の御真神の庇あり世不俠者といふもの。不義ふ與せば奸
邪を負はせ。善人の與ふ憂愛と分らそ。よく理義ふ明き。世々ふ命けて義俠云ふ。我父
房ハ。即是へ且我曾祖松木翁と汝が外祖父安堵云。俱々金碗氏の舊僕也。ハ
郎王の劍法を受ける。よも傳写矣。乃祖とへば我の四世汝が祖孫三世云れども行状霄
壤の差ひあり。辟言が這天津九云西郎の云。當年那古七郎と俱ふ主君の先途未達で
戦没の歎えある。天津兵内が弟と云。當年那兵内と俱ふ戦死をうけ。那古往。
犬士の一人我小父大田小文音是の云。因てかり。その先人の忠死も亦得失も異々ること

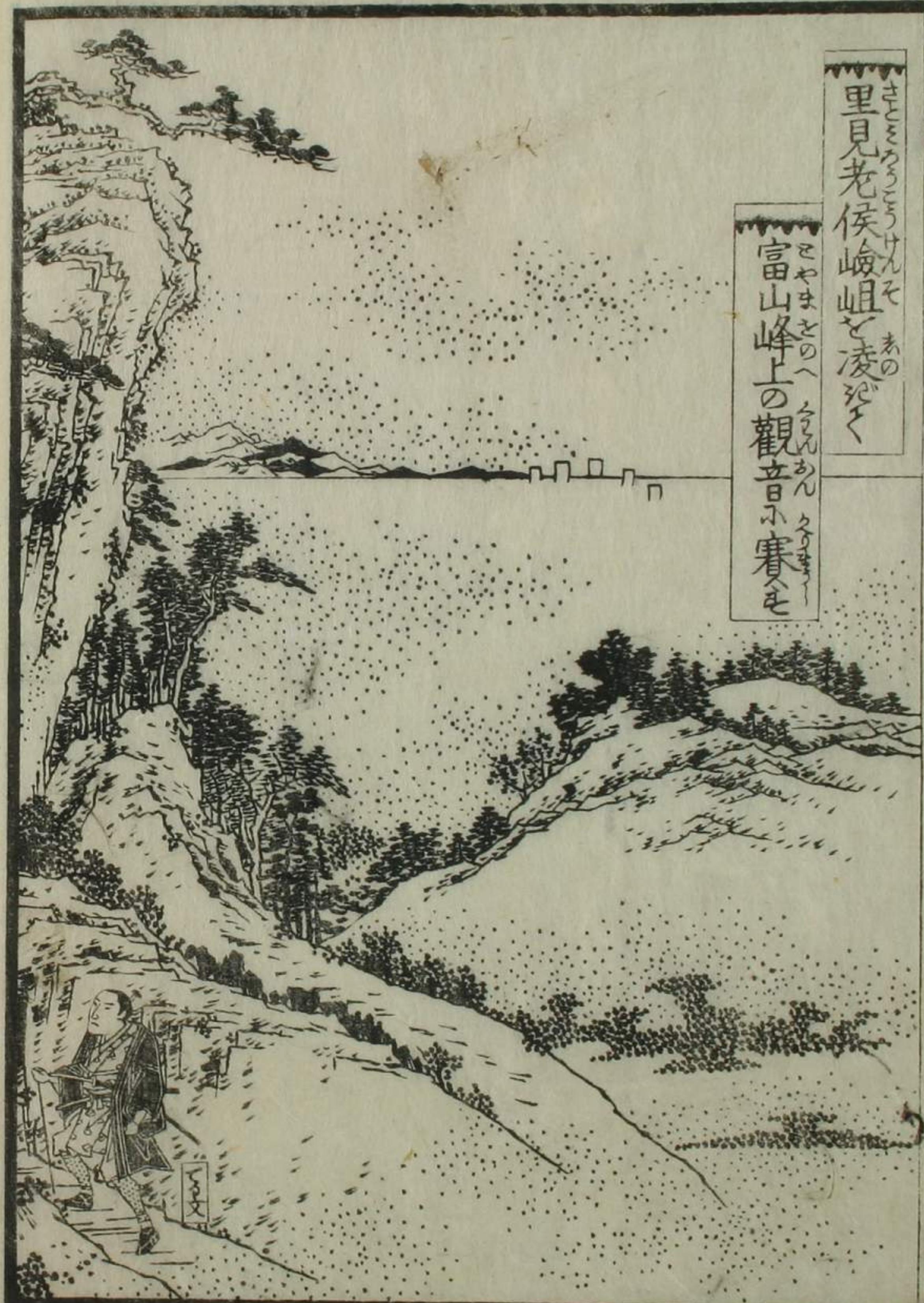
れども。子孫の絶嗣同トかねば受焉所の榮辱禍福かの如が差池あり。あらまと熟思
べ。往れば若いが繩縛の恥辱ハ皆是自業自得ぞ。憐むべくも哀むべく。昔と思
我も亦空谷跫音の情を失ふ。陳ちよふ詭みて良民ふらまく願ひ。我縛サ
功自易て命乞してぬす。身の非と飾るゆきをさせ。と諭せ。南弥六額イ衝ひ。仁
義の教諭肝胆。銘て身後モ忘げ。非除這身の許されざる。今へ一も恨す。
犬馬の齡。吳竹の四十。泊が今も。身の愚魯を知らず。大父の汚名を雪ふと思ひ
罪と累ね。皆術モ外。口も管陪話で已ざり。と親兵衛然と領ひて退ひて義
實王の身。遺すまわりて。嘆きをも。言皆听せ。ひ。他も招伏は。及別と仔細もひ。と
告ぐ。と義實うち听ひ。御宿も既と云け。他們ハ龍田の獄舎。敷蓋。高鞄向
て。言実る。安房殿。か。都て那里の下知を。命乞の折の時。寔不。停
食ひ。か。と宣ひ。天うち仰。思ひかけ。見。這那の回答。時を。寝て。上墳。ひま。

果を喜んで。快くべと遠く。身を起さんとあら程の貝六日。左右より找考。稟をす。萌
三が見花と承ぬてからまわり。又螢崎十一郎照文とある。餘御伴の近習兩名。俱
まわりひが。丸を見る。最中か。仰れ。鳥を伏ふ。後方か。扣て。そい。れと。少々あれ。義
實王の。赤復石。尻を樹て。そのよた折へ。快召など。仰る。目見六。阿志。退院。程一。もあ
う。東峯萌三。莽草と桃の花を。どさり。持て。找。且照文以下の伴當も。俱見参
入。す。登時。萌三が。左。櫛高か。仰付。れる。る。花を承ぬて。還り。まわる。と。せ。程。十一郎
们。御登山。お見。伴當の。寡。たゞ。心。り。と。そ。俱。推參。侍。お。君。お。御。危難。あ
り。幸。神童の。賊徒。と。捕。捕。り。と。事。大。緊。側。聞。て。皆。共。侶。か。一。え。驚。驚。又。歎
詫。脚。高。運。の。あ。免。今。ゆ。感佩。は。歎。と。祝。一。票。せ。照文。も。找。近。至。宣。傳。ゆ。櫛高
御。登山。の。死。伴。と。許。き。せ。あ。ざ。る。が。も。萌三。を。す。見。花。の。御。用。を。還。さ。を。あ。い。が。と。之。胸。中。安
く。一。霎。時。那。里。お。ひ。り。が。左。も。右。も。堪。く。お。見。叱。と。省。と。同。志。の。甲。ひ。と。誘。う。て。推。參。

仕。る。甲。斐。奈。御。危。難。の。事。の。趣。伏。姫。神。の。靈。驗。奇。特。及。大。分。の。大。江。親。兵。衛。が。喜。の。頭。末
并。不。與。四。郎。音。音。们。一。家。兒。の。再。生。の。奇。談。を。料。忌。君。の。死。後。方。モ。粗。听。知。と。又。ち
ら。少。脚。を。洗。一。件。事。比。皆。君。の。御。洪。福。最。歎。く。ひ。と。壽。因。ま。う。れ。義。實。主。の。含。笑。を。く。點。頭。で
然。て。櫛。実。若。們。と。制。め。櫛。ふ。在。う。せ。か。も。今。人。少。要。あ。折。へ。招。れ。ぞ。よ。く。來。る。が。萌。三。を。
一。兩。個。の。同。僚。と。俱。ふ。這。生。口。们。と。快。櫛。へ。牽。下。と。那。首。を。雜。兵。と。領。て。今。宵。瀧。田。へ。遣
毛。有。司。少。告。て。獄。舍。を。敷。並。が。ね。又。目。ひ。音。音。曳。り。單。節。と。両。個。の。櫛。兒。が。二。郎。尺。八。と。大。山
寺。へ。案。内。を。今。宵。那。首。へ。止。宿。を。せ。と。我。も。亦。時。宜。ふ。よ。又。那。寺。へ。立。寄。り。曉。ふ。と。等。て
明。日。歸。城。えん。親。兵。衛。と。與。四。郎。と。我。御。道。す。お。走。が。れ。ば。十一。郎。具。六。们。へ。這。里。ま。り。登。山。の。伴。小
立。つ。ド。就。中。十。郎。へ。親。兵。衛。が。年。四。の。秋。神。殿。へ。遇。ひ。よ。他。が。生。死。存。亡。を。思。難。く。う。ち。不
娛。ふ。料。を。も。今。對。面。と。年。來。の。胸。用。け。お。け。寔。お。奇。へ。だ。り。き。だ。や。と。仰。お。照。文。額。と。僅。く。
御。詫。如。く。和。漢。今。昔。世。不。神。童。を。あ。く。ね。ど。身。長。き。慄。猛。可。大。だ。う。き。り。と。一大。奇。

ト事も古事も傳き。後の世へ有るがん前より下り相ひ。幼貌へ耗ね。その人とも
空氣せばへて詔す。冠猶緩ゆふ來一方の物を听ぎ。思は樂く。却要緊に
條と稟上漏し。稻村の大城。吉屋八郎景能。次九君の先使として駿馬一疋残
牽る。今朝龍田の御隱館へ來着。仕合ひ。小君の今朝未明。大山寺御参詣のよ
う。御乗馬。快見參入。身を耻。那首身を御坐す。入御登山の
趣と。听知て急先迹を慕ひ。這山の麓まで參す。がど臣們。まこと許さぬ。送置
せめり。這里もへと併て御下向。等一品件の駿馬。青海菴村より。今番三頭献
アリ。を一頭。館山。御陣へ牽へ。お嚴君。第へと。御候へ。アリ。
獻。をあらそと。と呼え。義實主。听く。もうち含笑て。次九の尚幼小。父祖孝順。
故。六氏元清澄。们。稟薦。度あらざん。と仰。親兵衛找。願。お死馬を。
小可。貸。今。館山へ騎走す。立地。御曹司。極。食す。もと。と。惣を義實

アリ。おと。壯士哉。勇士の情願。开も然。筋糸とも。義實。大軍。でも。動。花勲。敵。
和郎。一個。おと。成。も。ん。开も歸城の後。左も右も。然。も。お無。と制。也。許
ゆ。親兵衛。おと。思。あ。争。難。て。應。と。退。不。余程。の。義實。王。先。や
墓所。おと。を。秋。を。機。令。て。衝。立。身。起。と。萌。云。遽。と。花。貞。六。小。遊。與
あ。當。下。與。四。郎。の。先。立。親。兵。衛。照。文。日。六。左。右。從。ひ。や。程。保。音。音。又
曳。も。單。筋。と。力。二。尺。八。を。侍。と。目。萌。三。自。餘。近。習。と。俱。不。跪。坐。目。送。り。ま。せ。義
實。急。か。そ。う。そ。萌。三。们。か。る。の。方。然。も。生。口。每。と。領。て。龍。田。還。と。我。今。宵。大。山。寺。へ
止。宿。の。よ。も。有。司。不。告。よ。お。及。ぬ。と。參。る。夜。分。の。心。門。戸。の。守。衛。も。聞。か。ま。く。快。樂。
ね。と。お。の。萌。云。唯。と。應。と。肩。姑。く。跪。坐。既。而。て。義。實。王。遠。く。手。與。象
程。の。大。家。ひ。と。身。と。起。と。萌。云。自。餘。の。同。僚。們。と。眞。不。五。個。の。生。口。每。の。索。食。各。ち
羣。立。れ。ば。音。音。捨。る。肩。尖。刀。と。又。携。て。媳。孫。們。と。眞。目。導。れ。す。存。一。麓。路。ひ。聲。り。



却説里見義實主。山路を陟りまよ。繞る兩工町下。一條の谷川あり。す。大麓
河の水源ある。此水の涸れれば。昔不方と同ドク。前回は即伏姫の墳墓ある。
品出属へ、大法師が年尚少て。金碗大輔孝徳と喚れ。時八房の天と較ひ。う。の
鳥眼鏡の鏡をす。伏姫落命未だ。思ひ半れて。涙と共に目も涙と共不目も涙。既に
山又山の出根躊躇花開初。遲々と長た春の日も。路の葉も那這と結ぶ。夢浮浮
世ぞと觀念の外他更も。抑這河の水涸れど。遇眞壁錦苔高く蒸て升降不便の
難處あ。親兵衛と照文へ。義實の毛被あ。或藤蔓不推り。出枝ふ
枝と推揚て徐道引。既にして。義實の品出属不疎着て。先那這見ゆハ
木と樹。辛々と前回お送る。與四郎ハ朴刀と衝立々先小找て。荆棘と拂ひ畢する。
嵐門の邊邊火地炕あて。鍋と樹。余の餘。碗と折敷。桶柄杓。擂盆菜刀。燐匣
あ。の。裡面。延と幾枚。布れど。衾夜物。未だ。義實を許り。親兵衛

们。矣の年。凍夜ひひて寝る。春冬の寒け。夜ゆ。衾ひを欲甚。廣。を。向
れて親兵衛。然ひ。這品出属在。冬の夜も。暖て汗も。可。られ。衾ひ欲く。も。ひ。至。
夏へと涼へて。蚤蚊も。む。ひ。矣。ハ。義實點頭。然。あん。开。而。奇。と。稱。て
軀て。伏姫の墓頭。ふ。追り。之。標の松。翠を。増て。梢高く。そ。か。然。あん。开。而。奇。と。稱。て
際。達。ま。小草。も。刈拂ひ。墓。今朝植。と。か。や。じ。色々の花。多く。青磁
香爐。不。焼。さ。た。煙。灰。滅。是。亦。與。四。郎。音。音。が。互。向。方。行。猜。せ。も。
登時。船。貝六郎。齋。一。花。植。更。石。獨。汲。汲。と。也。與。四。郎。も。亦。兵。帮
助。準備。を。も。整。併。義。實。懷。一。裏。の。香。奪。め。牛。の。香。爐。不。燒。萬
考。廻向。よ。時。移。久。少。程。不。照。文。貞。六。跪。坐。後。方。と。大。山。慶。雲。と。咲。奇
峯。累。風。松。壽。起。彈。琴。似。靈。芝。石。上。黏。五。彩。眼。美。異。
幽。谷。より。生。友。求。聲。沙。石。黑白。雜。基。仙。見。由。飛。泉。底。

當と見つて深淺を料る易か。実は是塵外の一天地東海無雙の仙境也。憶ひを嘆嘆せられり。又大江親兵衛も出世の暇を眞示えんと。墓廟朝ひて拜謁す。次に照文貝六郎與四郎も許されて送代を拝みけり。就中照文の亡父輝武の事。今亦を少思ひ出で。哀甚悲の情を方多を口は。是一蓮托生を念じて稍罷能くふけり。祭果て。義實主の這伴當門と從て。那首級を瘞する塚と名を起し。義實主と四郎音旨門が築かれたとゆえ。馬塚の名出づ。義實主。兩個の塚と。左あ右さを商して現親兵衛。伏姫の靈廟也。午と戌と六食今先に。這丘。大塚ともと喚做れ。大塚も信乃が家號と相視て。宜しか。因て。其の年改て。大馬塚と喚め。何んぞ衆伴六の意。傳へよ。仰世家異口同音。奉り恩を心け。の後居の歳月と歴。品田屋家伏姫銅釜化。大家。大馬両塚と共に。里見九世義安の時まで。其後の。今分多をきり。志。

話省饒舌。登時義實主。照文と與四郎を喚近つて宣ひ。茲より峯上へ達す。やう。卒觀音堂へ参詣。又與四郎案内せよ。と只管ひそぐ。と照文諫め。稟主意。う。御談で。復那里迨。脚下向山路。暮を。走不便。かくん願ひ異日參。毎の。と。あ。參。義實。否我。も亦其頭の。と思ふ。あ。ねども。卿。危難と免。又親兵衛と。得。皆伏姫の神靈の冥助擁護を依る。ど。他。苦提の與ふ。建卒。る。峯の堂。觀音薩摩。妙智力。加。も。知。べ。れ。詣。路。と。沿。ざ。か。ち。路。開。そ。茲。ま。來。空。不。帰。あ。る。率。與。四。郎。先。立。と。諭。と。官。進。理。糾。照。文。們。再。談。及。お。廻。從。辛。と。登。程。お。ま。山。嶺。届。そ。那。這。と。見。且。ま。安。房。上。慈。の。海。武。藏。伊。豆。相。損。の。海。濱。ま。煙。霞。の。間。見。

走船の白帆幽。一葉の波濤が漂ふ異る。况漁津島の夕陽が群飛が光景へ
百花の春風が翻るか似らけり。然べ補陀落山の秋の月も夜々蒸氣隈を傍ぐ。祇陀竹
林の春は鳥も朝々暢ひ來去えんと思ふ可の靈場佳景嵯峨の奇品出に刀にて削做生毛
及べる。屈曲する早蕨に画る波の磯打欃と疑ふ建立せられより既ふ矣。二十稔有餘を
歴れる。觀音堂荒れ也。只諸金の柱高欄互に風雨の為處を剥るもあらず。與四
郎音音が六稔以來仕まつて甲斐ゆゑ人詣ねども香華絶ぜぬ。網も空。鳥も糞也。
尊さ更ふひぬ。やまと。貝六郎が茲まよ。推考る花の折枝鳥餘りあつけれど。そぞ仏前の
花瓶が植加る。登時義實主。堂内下階找て。燒香默禱を礙ら。親兵衛照
文與四郎。貝六も主の後方並跪す。共侶が辯とり。是より下向て赴む。未だ登りあ
似ぞ歩も找みて。まことに疲労もある。やうけり。義實。照文と親兵衛。宣す。十一郎へは料
事。親兵衛と再會の本意を遂て。他が懇意を以て。神助の奇特を知るといへど。

左右の暇あり。我面前と憚り。別後之情を盡ます。折うち山路が交加入り。けまづ
あじ相譚ひ。听りあるが。疲労と忘れて。好慰ふやんぞ。仰み照文然い御免を蒙て。這通
小臣の三親兵衛と憂苦と俱あまれば。別後のも向まづ。恙す。一缺ども。舒るか暇な
る。雙琴を伴ひ立る。靴を隔て。癖を搔く心地のまゝで。然びに御免を蒙て。這通
路來一方と話。慰めひ。と答まつて。親兵衛。照文と親兵衛と。うち廝話。やく程。那神罰。心地快
き。舵九郎がゆゆ。の後甲斐の石木也。信乃道節は環會する。其頭のふと羽と
走。濱路姫の上までも。甲ひとくじ止め。親兵衛も亦照文が。廊も少漏う。方。我うと
姥雪一家のまも。皆詳く説ふを。照文の。奇と稱て。連ふ歩の找むと覺む。側
聞する貝六郎も。憶を止息を吻くま。ふの言を。毎ふうち。敬驚。袋番と。まがり。少程
義實主の甲ひの物。この最取真あれ。笑局に入りて。来るともか。又舊の樹位間をた
邊までが。東の程。然あも長ら。春の日。生憎越す暮春果て。加以今宵の鳥夜の

る。樹の下やびがひとあく。其里とも絶て辨。をき。主従俱。找難て殆困。ト東。する折。去向の路より内々と。基火張燈晃たて。人馬許。見遁つ。至るけり。登時。義實。王従。這衆人の親疎。禍福。を量り。難々。路傍ふ杖と住て。孰視。他。引提る。張燈。尾號。ハ中黒。えければ。僅。心。むら。る。照文。貝六。と。兵。但。木。杖。生。て。あ。れ。る。か。伴。當。門。放。上。ゆ。も。這里。まで。脚。下。向。き。快。燈。燭。と。そ。來。ぞ。と。西。聲。高。く。呼。り。けり。當。下。來。る。伴。當。門。応。と。答。路。傍。ふ。ま。れ。て。二。幼。ふ。ね。え。る。そ。中。み。道。習。兩。三。名。持。る。張。燈。うち。抗。て。遠。く。浅。き。走。る。照。文。们。ま。ち。對。ひ。て。櫛。高。目。萌。み。仰。を。寧。て。か。り。來。る。折。今。日。御。危。難。後。暮。利。運。ふ。う。り。一。更。の。趣。并。よ。大。江。燒。雪。们。奇。異。の。顛。末。そ。崖。略。と。听。知。く。れ。相。欽。び。脚。下。向。き。も。那。里。ふ。も。來。り。す。か。日。暮。暮。る。ま。も。ア。ス。ア。リ。有。敷。繫。心。り。と。も。く。と。准。備。の。張。燈。蕉。火。の。路。と。照。と。お。迎。お。参。り。兔。就。て。稻。村。よ。の。元。使。廿。屋。八。郎。景。能。久。く。河。原。來。も。ま。り。と。が。車。来。ま。り。と。お。馬。と。そ。身。の。伴。當。と。の。那。里。ふ。留。り。と。ま。

このうま。ようもあとそこ生れ。ひで。すそみそさへ。せんく。おち。まつふ。ごくらきつ。這馬。當國。青海巷の牧。おりゆう。既に齒。まづく。青白駒。駿波。似。牧。府。命。け。青海波。と。吸。做。方。と。秉。り。ぬ。こ。見。が。義。實。領。ぬ。は。寔。毛。色。の。波。似。方。の。青海巷。不相稱。ひ。开。へ。好。名。後。く。美。如。右。喚。め。れ。を。只。管。賞。讚。あ。の。う。側。侍。る。親。兵。衛。と。子。生。て。和。郎。這。馬。を。何。と。う。え。す。向。れ。親。兵。衛。然。れ。子。の。所。え。不。語。道。似。れ。ど。小。臣。曾。少。王。と。生。宜。く。方。多。べ。目。差。相。生。宜。と。れ。明。え。べ。脊。と。將。軍。と。是。強。と。優。と。腹。と。城。身。と。有。約。馬。ハ。尺。以。上。と。龍。身。七。尺。以。上。と。駿。と。六。尺。多。通。て。馬。と。良。馬。の。頭。を。郭。と。好。張。至。を。欲。考。四。下。と。令。兵。ひ。て。長。年。眼。高。く。匡。う。毛。眼。睛。鈴。と。懸。く。方。如。く。眼。下。ハ。蚕。と。鑿。と。懸。と。像。く。鼻。孔。大。う。毛。鼻。頭。ハ。王。火。の。二。字。也。口。中。赤。か。げ。膝。骨。ハ。圓。て。張。ま。と。宣。一。戻。耳。ハ。相。近。て。堅。く。小。毛。厚。筋。伏。龍。骨。ハ。砍。く。頸。長。く。雙。趺。大。う。て。突。出。蹄。ハ。厚。く。腹。下。平。ホ。ト。八。字。あ。尾。骨。高。く。ト。無。毛。正。長。あ。べ。か。の。如。じ。を。千。里。の。馬。と。此。是。じ。と。も。ち。本。李。伯。樂。が。相。馬。經。の。崖。略。よ。ひ。款。這。

馬。高。七。尺。有。餘。骨。法。右。の。趣。不。及。ぎ。者。あ。り。と。へ。ど。龍。と。驪。の。間。う。と。騎。る。者。一。日。百。里。を。行。ぐ。と。易。る。と。ん。の。雜。毛。の。波。濤。が。似。れ。と。龍。種。も。ひ。が。な。べ。と。え。も。云。外。飾。也。世。少。稀。き。と。愛。る。の。良。馬。と。做。ま。足。と。び。然。と。阿。容。る。氣。色。も。う。稟。あ。ー。と。義。實。主。駭。に。感。て。通。要。あ。才。子。き。かる。今。這。馬。を。和。郎。が。取。せ。鞍。鑑。ま。皆。具。ひ。牽。り。く。來。な。が。便。り。好。一。ち。乗。て。我。先。立。て。非。常。不。備。金。と。仰。す。親。兵。衛。忻。然。と。額。と。衝。て。賜。を。拜。ま。又。禦。ひ。や。う。鳥。許。が。ぎ。う。へ。い。ど。小。臣。が。曾。祖。松。木。樸。平。ハ。青。海。巷。村。の。民。を。う。ぞ。衆。大。の。馬。も。那。里。の。牧。よ。お。こ。ん。の。舊。縁。ゆ。先。乗。試。ひ。ん。と。ひ。く。聴。て。牽。退。げ。内。と。うち。乗。る。勧。法。お。累。暴。馬。され。も。靜。安。ま。あ。あ。ろ。不。隨。ひ。け。登。時。大。江。親。兵。衛。輪。騎。を。做。き。と。西。三。遍。舊。祭。祭。下。立。て。又。先。前。に。參。り。か。け。義。實。主。ハ。親。兵。衛。が。武。藝。膂。力。の。捷。れ。と。御。高。目。數。ひ。お。多。べ。と。馬。術。ま。づ。能。せ。ど。と。思。ひ。る。と。這。暴。駿。馬。を。賜。と。乗。せ。あ。り。と。精。妙。か。く。の。ご。と。ふ。あ。れ。ば。と。感。悦。浅。く。と。況。照。文。以。下。の。伴。當。孰。う。甘。服。ぎ。う。免。ま。と。之。憑。

を思ひけ。尔程の義實主。晴る星をうち仰げ。噫漫々と要を立す。甲夜過後
え卒やべ。登兒を放ちて立す。鑄奴が手を牽う。馬をも乗れ。尔程の親兵衛も
亦青海波を衆てぞ先立。ける。の餘苦屋景能。稻村より衆を來ゆ。馬あり。許
され。騎馬を後方ふ従ふ。恁而照文貞六。與四郎们近習外様の伴當。在居ふ従ふ。前
後と衛り。張燈蕉火振照し。ゆきをまぎ。發す。小水門。目名の身。伴當と大山寺を
道人兩三名。木桶を乗へて。迎へ。來る路傍。跪居て老侯ふ見參。義實主。音音
们を那里送り届す。と報るを听く。只管。馬の足搔と早め。既ふと大山寺を
門。小來ゆ。ひら。馳て馬より下立。玄関ふ走ひ。其程。ふ住持。役僧を領て。處へ
迎へ。馳て客殿ふ案内をす。茶と薦め。果子とあわせ。富山の奇談。神女の靈驗
听ふ。隨ひ。坐て。お歎び。歸る。侍り。一程。ふ役僧们。行童。喝食。給侍。立て。
先准备の夕饌。と老侯。羞。ある。を。次ふ親兵衛。照文们。都て。袋三十名の伴當。む。

のこ。年。送る限。夜飯。との事。馬。秣。と飼。る。管待極。て。叮寧。を。中。親兵衛
の。老侯。と。一席。坐。なう。ざと。許され。ぐ。人感。れ。を。羨。み。け。り。恁而。伴當。們。の。饌。送
も。る。果。と。吃。え。う。義實主。與四郎。と。音音。曳。單節。們。と。御。聞。听。あ。奇
譚。の。漏。る。ゆ。も。あ。ん。狹。そ。皆並。て。客殿。召。登。ひ。る。か。後方。照。文。景。能。見。六
日。們。も。侍。り。う。登。時。親。兵。衛。找。出。て。義。實。主。王。宣。稟。ま。す。我。君。願。か。る。小。臣。の。權
且。暇。と。賜。ひ。か。恩。賜。の。馬。不。衆。走。ら。今。よ。館。山。卦。卦。て。御。曹。司。と。極。令。拿。り。を。す。
う。と。と。義。實。主。さ。う。て。开。き。亦。酷。性。急。和。郎。の。庸。人。よ。ば。れ。縫。せ。毛。術。あ。と
て。も。館。山。ま。で。六。路。の。程。十。數。里。す。り。と。這。夜。と。犯。と。遣。れ。ん。や。明。日。瀧。田。領。て。還。そ。
和。郎。と。祖。母。妙。真。小。對。面。ま。せ。ん。と。憲。ひ。ふ。そ。う。笑。き。く。恨。み。せ。ん。和。郎。敵。城。ふ。や。ん。と。う。ぶ。異
日。義。成。小。そ。笑。を。告。て。謀。ド。合。を。便。宜。お。任。え。懦。え。要。乞。支。か。か。と。諱。返。り。制。わ
ゆ。を。親。兵。衛。听。え。ゆ。す。賢。慮。寔。は。そ。理。あ。ど。を。總角。の。生。賢。像。小。御。誕。ふ。悖。

らが罪ぬぐまく。寔不畏う爲れど。古語も。兵と拙速。貴ぶとテそやえられ久と謀。巧るを。よと。今うち那里へやくああくば。御方の機密を敵ふ知る。透えりと矣。小臣も亦祖母。對面を急ぎるあくねど。そき私の恩愛の臣する者の本意あくぞ。痛きのみ御曹司。虎穴の内ふ死身を置れて。いくもの艱苦を受ふらんと想像。なれば一日も春秋異々び然べ神。あ。余教も山路の寇を對治。快義通と極食よりねと宣せす。這黒宿て。今宵と。夫ふ過。来たり。御許容あくべ。公私の大幸。あの上やひ。翁ひを。と。管ふ忠義。厚に武勇の元鬼止。もあくされ。義實僅點頭。ひて然までも思ひ禁止め。日晚方まで。鳥夜す。ちりと。心のと。非如和郎十勝の計略ありと。もの身單也。ん。危。我伴當の數と盡り。咸和。郎。従へせん。欲他們へ都て甲曾の準備。を争何れ。と向れて親兵衛否。伴當のヨリ。路。次。煩ひあり。もの身の外ふ一人とも。邦助と求むべくもあくねど。然。一も。幽主の仇使と稱て那里へ赴く。されば。伴當黨一名と。鑑隸の奴僕。あくべ。這兩個。事足り。況甲曾を。お。要す。

れがれきどよまか。まうきあらま。ひそめ
願ひ礼服一領と資をもと賣ふぞ。義實主眉と頬聲て、
と唱て那里まで何とぞと向れて親兵衛然し筆寿策へ密々と
御ひりくもひりん。目今おも云云と安定期のからう。と答まうせば、黒頭て、然ど和郎を拿
め我身甲と掩胸脛甲も柳筥ゆわんぎん。开ざ礼服の下に着籠ゆ。却誰とも伴若黨
打扮して遣を。どうりで左右とおなじゆ。芭屋景能找出て、お笑ひを小臣。仰付ひむかへ。
裏裏少御曹司も俱一きり。殿墓の事か。那里の地理、既不知れり。且稻村より乗と來ゆる。
馬も這里来ひ。那青海波染及をも。五十歩百歩の間也。赶續びりん。といへば又與四郎を
席末よろ。膝と杖と上票奉す。願ひ和子の鏑隸（くわい）小可（こが）參るべれ。六稔以來守傳（まつら）。今ち
侍（さむけ）大事の屏（ひや）。立ぎ生申斐（ひ）べど。どうぞ義實主も笑ひ。八郎へ稻村の使者（ししゃ）おあれ。内人首
他の差別の良ひも良べ。所望依ふようえ。與四郎へ老人へ駿馬の足不及（あせ）已ねと禁めを。他
與四郎悚（そぞ）と眼を瞬りて。御説でひとも。小可（こが）あの年來山路不熟（ふじゆく）。足（あし）かと（かと）。かと（かと）。かと（かと）。

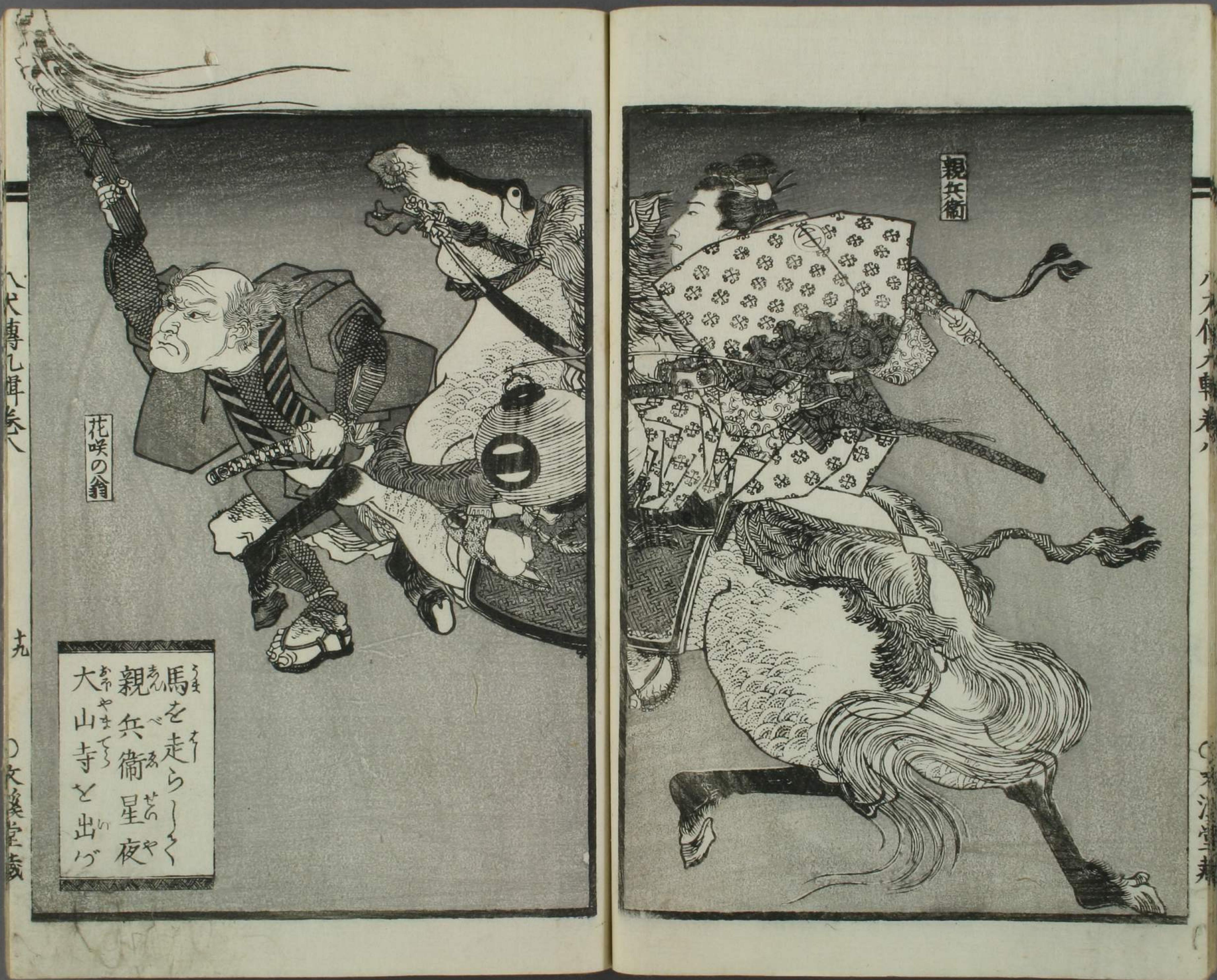
那仙果神將を。たゞ一所以。千里と走る馬を。赴續に極めて易う。乞許をかひ
か。と怨どて口管請され。親兵衛陪補をも。他に知せぬ。稀古の齡ふじど。世老
人。同ドか。倘路を疲れ。搔机にて。小馬。尻馬す。乗せ。の。義も御の。安候べ。と。宋
義實主。含笑て。然ぶ甲乙。俱か。安房殿。もの。趣事。通達せ。も。期。卦位。
不便。きん。ど。傍。と。ア。十一郎へ。我副馬。うち。衆て。他們と。俱。路次。そぞて。是。もの
よ。射方の陣へ。注進せ。八郎と。借。と。別。を。り。明日稻村へ。遣。まう思。と。仰。
察。與四郎。ひ。照文も。欣然と。俱。不言。義志。す。け。登時。又。義實王。日。見。六。と。喚。近
づ。我両箇の柳。宮。副佩の両刀と。御。着。方。礼服。あん。倘。掩。脰。と。脰甲。と。身甲。も。あ。が。
皆。廣益。から。載。て。快。り。ト。車。と。分。付。之。件。の。両臣。の。義。と。應。へ。そく。俱。立。す。け。姑。且。
を。見。六。目。へ。老侯の副佩の。刀。衣裳。ひ。え。もの。餘。の。東西。を。両。箇。の。廣益。が。載。り。く。來
々。侯の。身。須。遂。安。排。べ。を。身。甲。も。掩。脰。脰。甲。も。非。常。の。備。が。お。伴。當。が。と。あ。う。い。だ。と。の。下

義實主。左見右。そ。先副佩の。両刀。と。傍。置。と。親兵備。うち。對。て。宣。す。和郎。へ。所
き。と。我。家。大月形。小月像。と。名。け。る。裏代。の。刀。也。大月形。の。家。督。と。共。不。昔。年。義。威。讓
與。へ。る。と。ひ。き。件。の。副。佩。の。刀。を。も。と。令。抗。て。そ。此。是。小月像。へ。夜。行。迷。ぬ。奇。特。秀。葉
突。え。る。車。宝。され。ば。今。日。和。郎。が。大。功。の。賞。と。と。取。ま。る。の。短。刀。不。伸。添。て。館。山。へ。赴。け。か。又
あ。小。袖。と。肩。衣。袴。ハ。長。短。和。郎。と。相。応。を。や。量。り。と。死。東。西。京。も。开。と。着。て。今。番。役。价。を
勤。め。と。あ。う。る。方。狭。と。言。示。し。と。ひ。き。刀。を。遞。與。と。め。バ。親。兵。衛。ハ。處。下。く。膝。と。找。く。小。月
像。を。受。戴。と。席。と。避。け。腰。不。帶。と。寧。ま。す。然。む。ろ。も。竟。小。臣。が。微。功。と。賞。と。め。ん。も。僕。莫
大。賞。い。寘。加。か。あ。ま。と。か。徳。と。寧。ま。す。刀。を。賜。り。や。お。使。と。勤。果。ゑ。程。と。返。一。生。を。見。へ。翁。と。を
況。當。家の。御。車。宝。と。知。え。る。這。れ。刀。と。賜。り。や。お。使。と。勤。果。ゑ。程。と。返。一。生。を。見。へ。翁。と。を
和。郎。と。與。へ。る。事。情。が。同。ド。か。べ。と。便。帶。と。子。孫。不。傳。よ。と。後。ま。と。あ。う。と。諭。と。又。中

きぬ一。あんべゑら。いとま。
寶、主へ親兵衛們。身の暇、あつて罷生んとする程。又喝返して宣安ち。和郎が騎馬の
打粉を我えまく欲すが。二門より這方へ寺法騎馬を許されねども。ある軍陣の使ひ事。
勿論非常の大事か。哀れ。住持が請きて。去闕の邊道より乗来ん。馬あへ飽まで豆秣を餉
毛。腰戦飯とあさる。十一郎八郎們與四郎も共侶ふ退りて。准備せしと仰ふ大
家阿と応て。立まく哀れ。親兵衛の恩賜の衣裳を肩ふ被せて。退き後方より照文
景能與四郎も。うち續ひて。退坐り。あ折毛の席末わゆり。姥雪の娘。姑音音
并ふ曳き單節も。却あ。京あ。既に後ろ跟ひ。ゆる折音音。いそく良人の袂。掖住
め。悄語く。上の御恩のが。氣ふ。就ても小心あ。ひ。不ぞほけねど。老て勤勝難て。朽
惜ふ。もあ。す。馬ふ後れて期ふ合。俱一かじも。ま侍りえ。心ふから。只これと。とすふ與
四郎點頭。この主心もあ。景能們。後れト。そつ袖うち拂。庫裡の々を走り。余程禁
義寶、主の次の間侍する。近習を召て云々と。住持が請ふ。事の趣そ餘も下知を傳ふ。

矣。且親兵衛們が身装へ立歩んとまはる折快知りよと分付め。近習の辱心を失
候。うちる果て立ふけり。左右も程あ真夜半の鐘鎬と响く時候件の近習が走り來。親
兵衛們が身装皆整ひひと報る。義實然がと。邊く身と起ゆべ。目へ充佩刀を
持て後方ふ従ひ貝六郎の提燭を秉て。躊躇先坐を棄ける。既ふと義實主の身眞使侍り。
出の立音百曳を單節と俱努力二尺八も喚覺して。式台が聚會を。又老侯の伴當
大家廣庭に坐列れ。喜の容を露る。然が住持役僧們の義實主の身眞使侍り。
沙弥喝食們の所化寮の窓あ闇も甚く。今宵は天好晴れ。月を昇る。遮莫玄園の鳥邊を。磐石の左右も遠く。庭燎を焼かれた。烏夜も迷る隈まで。
白晝の如く明るき。今程大江親兵衛の青葱縫の身甲と鎧打の細鎗子の鉢櫻也。
上衣。綱の飾磨組の尉斗纏小袖の中墨の花號あると着下し。下から薄紅の脇脛の小袖。
可うち襲被て。純褐の長社袴の。も中黒の花號あると穿する。袴の襠どと。綱揚げ。鞆

撒金の筒竹韁胆と描金の絲柄の短刀。小月形の名刀。腰子跨え。細柄ある
馬上張燈と斜よ帶の間を挿て。那名馬青海波雲珠鞍置。真紅の厚織の燃牛可
も。襠方ふう跨り。此赤と白と絞分る。鞆子と襠織り。十般赤とる。馬立小屋の頭なり。
徐々と歩せらる。故意陥穀が着け。坐ふ便よしん爲て。當下燒雪與四郎ハ組の
綿腸衣の袖大をと。跨高の端折褰。海鼠風形の跨衣の草羽。前様ふ楚と結び。
鏢面ふ後ふ。正直是一個の十歳未満の神童年小。身長印く深山と穿新鷹の雲成
凌る勢ひ。一個の七旬前後の老翁。齡頽だれ。筋力壯。合河涉。虎の子と馳る情
あり。の餘延暦十一郎照文廿度八郎景能。己が手を打拂て。各馬が衆。俱歩
捷。奴隸と擇て。鏢奴をあざけ。倭而大江親兵衛仁の馬と。磐石頭を打つ。人品初
彌増。最長なる額髪と。左右耳を振分る。面色特ふ美き。威ひあれども猛き



ひきやうく
意氣揚々する打枱と観る者齊一稱賛と。憶ぞ耶々と喝采あり。登時親
兵衛馬を駐め。玄関をうち朝ひ鞍の前輪ふ額衝俯毛。義實主觀の聲破て。
通愛、充勇士の行藏我ハ明日より清吉左右を罷田の城ふ侯々在ん。曉天近
快晴ひと仰ふ親兵衛阿と應ふ。馬ふ拍れ舞遠々と。観る間不覺る。三門口與四郎
も亦後れどく。夸父が日と遙か勢ひあり。後方を續く景能照文腰ふ吊る張燈
鳥便の螢火と異ひて。並樹の松の右ひより。二町あまりと瞬間か。やくも不來きあり。

大江親兵衛活々素藤と捉ふ
里見御曹司優ふ陣營ふ還る

くせのぬえあんべ。あまき。あよ。めぐせひくえ
却説大江親兵衛。仁へ當晚。名馬青海波。ふらう跨て。大寺を出。より。絶縁二日許。下素
藤。館山の城。程遠く。上總州夷隅郡羽賀の郷の頭。並松原まで騎着。笑ひ。ま
だ明かり。あの時照文景能。俱。後れて。まごと。免車を。唯姥雪。與四郎の。駄馬。ふ走

携りて一町とも後るをとす。惧ある地とも方とももあられず。親兵衛深く嘆賞たんしゃう。翁齡頬に
なき路みちと千里の馬と俱ふ。鳥夜よも迷ひで逸早いつはや。十數里じゅうりと來ゆる。又是一奇きと云いふべ。意
ふ年來靈山れいざん心神じんじんと頤いて仙骨せんこつをもゆる。併伏姫神ふくひじんの擁護ようごも桑くわあらけんか。よ
りす與四郎含笑かんしょうて。名づくと我身わたしをも。奔走思ひの隨まつの事こと。壯年さうねんの弥增みぞのぞ。寔定じてうの神
女の冥助めいすけ。一蟹崎かにざき苦屋くやの赶着かんしょくを茲あれ。想ひを乞こう。とくふ親兵衛點頭てんとう。あら立ち
えふ。在曉あの月つき既いふ出だ。ひと明ありけ樹間じゆまか舊いきふ。佛堂ぶつどうあり。かが聴きて馬うまより下くだす。遠廢
堂の縁えん頬ほ。尻しりをうち楫いそて聰きひをも。當下とうか與四郎よ。袂たたきす。毛巾もうきんと食くむ汗あせを拭ぬぐ去はなぶ。馬うま
草くさを食くせる。左ひだり右ひだり程ほど天あま明あて。鳥とりの森もりを離はなぶ。時とき景けい能の照文あらわし。騎き相あわ並ながび。而ま
やくある。けづ。親兵衛ちんべゑの馬ま。在あり。さうら見て。俱とも馬まより下くだて。主僕しゆぱく。只管勞ひり。就中なか
與四郎よ。青海波おうしお。後あとれ。とく走はしり。ふ胆おのづかと潰つぶして。最さい恥はず。思おもふの。鑑錄かんろくの奴僕ぬくふく
們のみ。酷ひどく後あとれ。けづ。登時とうじ親兵衛ちんべゑ。既いふ來くわまぜ。這裏そこ。時とき

穆支^{ムツ}。我^{アシ}快館山^{カイカンサン}。敵城^{アキシ}赴^{マハ}。御曹司^{ヨウザクシ}極食^{カツシテ}。益奴隸^{ヨリスルガリ}。古屋^{コヤ}主^{シテ}。乘^{マハ}馬^{マサニ}。這頭^{タマ}鞍^{タマ}置^{マハ}。快^{アシ}之^ノ。照文景^{アラヒナガミ}。異議^{ヨリギ}。主^{シテ}。能^ハ遠^キ。身裝^{ボディ}更^{カハシ}。佯若^{ヨウガフ}。打粉^{タマシカツ}。照文^{アラヒナ}又景^{アラヒナ}能^ハ駕^{マハ}。景^{アラヒナ}能^ハ驅^{マハ}。親兵衛^{シンヒサム}。今日^{ヨメ}謀^{ハシメ}。慮^{ハシメ}。主^{シテ}。知^{ハシメ}。今^{アラヒナ}心^{ハシメ}。思^{ハシメ}。任^{ハシメ}。主^{シテ}。歩^{ハシメ}。陣^{ハシメ}。二^ニ足^{ハシメ}。馬^{マサニ}牽^{ハシメ}。行^{ハシメ}。步^{ハシメ}。陣^{ハシメ}。二^ニ足^{ハシメ}。馬^{マサニ}牽^{ハシメ}。行^{ハシメ}。浩^{ハシメ}。後^{ハシメ}。來^{ハシメ}。照文景^{アラヒナガミ}。佯若^{ヨウガフ}。伴^{ハシメ}。鏑^{ハシメ}。隸^{ハシメ}。僕^{ハシメ}。疲^{ハシメ}。不^足。曳^{ハシメ}。折^{ハシメ}。迂^{ハシメ}。能^{ハシメ}。棄^{ハシメ}。捨^{ハシメ}。馬^{マサニ}牽^{ハシメ}。相^{ハシメ}。俱^{ハシメ}。主^{シテ}。陣^{ハシメ}。走^{ハシメ}。却^{ハシメ}。説^{ハシメ}。大江^{オカミ}。親兵衛^{シンヒサム}。景^{アラヒナ}能^{ハシメ}。與^{ハシメ}。四郎^{ヨーラウ}。能^{ハシメ}。棄^{ハシメ}。捨^{ハシメ}。馬^{マサニ}牽^{ハシメ}。從^{ハシメ}。館^{カイ}山^{サン}。城^{シテ}。赴^{ハシメ}。程^{ハシメ}。朝^{ハシメ}。日^{ハシメ}。限^{ハシメ}。半^{ハシメ}竿^{ハシメ}。昇^{ハシメ}。路^{ハシメ}。傍^{ハシメ}。開^{ハシメ}。初^{ハシメ}。方^{ハシメ}。山^{サン}櫻^{シラカバ}。露^{ハシメ}。馨^{ハシメ}。既^{ハシメ}。不^{ハシメ}。親兵衛^{シンヒサム}。館^{カイ}山^{サン}。城^{シテ}。正^{ハシメ}。門^{ハシメ}。追^{ハシメ}。一^ニ町^{ハシメ}。許^{ハシメ}。遠^{ハシメ}。方^{ハシメ}。景^{アラヒナ}能^{ハシメ}。棄^{ハシメ}。走^{ハシメ}。啜^{ハシメ}。引^{ハシメ}。景^{アラヒナ}能^{ハシメ}。憚^{ハシメ}。氣^{ハシメ}。色^{ハシメ}。單^{ハシメ}。正^{ハシメ}。門^{ハシメ}。橋^{ハシメ}。際^{ハシメ}。找^{ハシメ}。向^{ハシメ}。聲^{ハシメ}。高^{ハシメ}。呼^{ハシメ}。號^{ハシメ}。篠^{ササ}城^{シテ}。人^{ハシメ}。手^{ハシメ}。目^{ハシメ}

今國^{カントク}事^{アシ}使^{マハシメ}。大江^{オカミ}親兵衛^{シンヒサム}。仁^{アシ}。主^{シテ}僕^{ハシメ}。統^{ハシメ}。二^ニ名^{ハシメ}。駿^{ハシメ}。駆^{ハシメ}。怕^{ハシメ}。箭^{ハシメ}。前^{ハシメ}。發^{ハシメ}。銃^{ハシメ}。飛^{ハシメ}。拒^{ハシメ}。主^{シテ}。長^{ハシメ}。報^{ハシメ}。知^{ハシメ}。城^{シテ}。開^{ハシメ}。迎^{ハシメ}。事^{アシ}。兩^ニ番^{ハシメ}。喚^{ハシメ}。門^{ハシメ}。程^{ハシメ}。親^{ハシメ}。兵^{ハシメ}。衛^{ハシメ}。景^{アラヒナ}能^{ハシメ}。與^{ハシメ}。四郎^{ヨーラウ}。主^{シテ}僕^{ハシメ}。名^{アシ}。正^{ハシメ}。門^{ハシメ}。橋^{ハシメ}。度^{ハシメ}。開^{ハシメ}。遲^{ハシメ}。鐵^{ハシメ}。門^{ハシメ}。頭^{ハシメ}。立^{ハシメ}。可^{ハシメ}。時^{ハシメ}。館^{カイ}山^{サン}。城^{シテ}。兵^{ハシメ}。衛^{ハシメ}。久^{ハシメ}。國^{カントク}事^{アシ}。大軍^{ハシメ}。曲^{ハシメ}。是^{ハシメ}。籠^{ハシメ}。中^{ハシメ}。鳥^{ハシメ}。似^{ハシメ}。私^{ハシメ}。然^{ハシメ}。主^{シテ}。攻^{ハシメ}。擊^{ハシメ}。私^{ハシメ}。防^{ハシメ}。禦^{ハシメ}。外^{ハシメ}。他^{ハシメ}。事^{アシ}。四^ニ門^{ハシメ}。衛^{ハシメ}。成^{ハシメ}。轍^{ハシメ}。憶^{ハシメ}。至^{ハシメ}。日^{ハシメ}。弘^{ハシメ}。忽^{ハシメ}。地^{ハシメ}。幽^{ハシメ}。主^{シテ}。僕^{ハシメ}。名^{アシ}。告^{ハシメ}。最^{ハシメ}。尊^{ハシメ}。大^{ハシメ}。喚^{ハシメ}。門^{ハシメ}。卒^{ハシメ}。鼙^{ハシメ}。且^{ハシメ}。訝^{ハシメ}。國^{カントク}事^{アシ}。小^{ハシメ}。備^{ハシメ}。張^{ハシメ}。見^{ハシメ}。思^{ハシメ}。不^{ハシメ}。似^{ハシメ}。主^{シテ}。僕^{ハシメ}。名^{アシ}。騎^{ハシメ}。馬^{マサニ}。少^{ハシメ}。年^{ハシメ}。鑄^{ハシメ}。奴^{ハシメ}。老^{ハシメ}。人^{ハシメ}。壯^{ハシメ}。若^{ハシメ}。黨^{ハシメ}。他^{ハシメ}。誰^{ハシメ}。何^{ハシメ}。泉^{ハシメ}。惑^{ハシメ}。遽^{ハシメ}。退^{ハシメ}。遠^{ハシメ}。這^{ハシメ}。隊^{ハシメ}。頭^{ハシメ}。人^{ハシメ}。礪^{ハシメ}。時^{ハシメ}。願^{ハシメ}。業^{ハシメ}。當^{ハシメ}。報^{ハシメ}。然^{ハシメ}。願^{ハシメ}。听^{ハシメ}。眉^{ハシメ}。顰^{ハシメ}。聲^{ハシメ}。城^{シテ}。樓^{ハシメ}。登^{ハシメ}。左^{ハシメ}。右^{ハシメ}。見^{ハシメ}。笑^{ハシメ}。意^{ハシメ}。不^{ハシメ}。許^{ハシメ}。内^{ハシメ}。容^{ハシメ}。不^{ハシメ}。左^{ハシメ}。右^{ハシメ}。漫^{ハシメ}。不^{ハシメ}。許^{ハシメ}。主^{シテ}。素^{ハシメ}。藤^{ハシメ}。報^{ハシメ}。主^{シテ}。寄^{ハシメ}。隊^{ハシメ}。使^{ハシメ}。者^{ハシメ}。稱^{ハシメ}。額^{ハシメ}。髮^{ハシメ}。猴^{ハシメ}。子^{ハシメ}。名^{アシ}。礼^{ハシメ}。服^{ハシメ}。馬^{マサニ}

親語の裡
うら跨り。大江親兵衛仁と名告て。僅不兩個の伴當徒。胆太くも正門を脚橋既に渡り
來て對面を請ふる。因て精一は義成久く攻厭倦て。其御の免隨不義通と牽督。
御軍の事。記すえ。轉記すえ。皆これ。罵でちがひ。少後告。小後告。賤これ。餘も
濱路姫と餽送を。和贋使价乎を。計ひえや。多素藤笑ひ。尔听々屡々
點頭で。开き推量某差乎。必和議使价乎。然るど某甲某乙と答える。一二の老
黨と閣ひ。二十か足。又小猴子。大事の使价か。立せ。の尋ね。剛と征吉と。拙策る。後
命。矣。行徳失あり。而。怯を取りて。弱輩。充許され。と思量す。所行さん。开き左を私若も
充。飽き。武威と赫奕を。开奴の胆と潰さん。事の準備。体々不善。固様々々計す。
あ。議。餘の老黨。亦。士卒も相俟て。事整り。城内。开奴を容れ。案内。等よ。我書院を
對面せん。快きせよ。と。其。願。八異議。感服を。義の座を應へ。走り。外面退け。不
可。対。程。大江親兵衛。城の門前。馬を駐め。主僕。馬上。晌許。う頬。ふ焦燥。隨の景
能と。與四郎。迭代。城門を敲て。開く。と。喚れ。も。城内。す。雜兵們。駆逐。と。答へ。の。之。

速歩用く。づもあ。至。倭り。一程。ふ礪時。願へ。平田張盆作。與冬と。共。侶。華方。武具
毛。隊兵。多く。領て。歩。度。正門を。度る。雜兵們。自。目。注。下。知。偕て。寄隊の陣より。未
身。と。ゆえ。大江親兵衛と。狹。喚。做。る。猴子。王僕。門外。小在る。き。が。内。へ。れよ。喚。れ。雜兵
們。心。と。答。て。角門を。推。用。卒。を。使。價。へ。り。あ。と。親兵衛。冷笑。ひ。馬。より。下。り。聲。高
ち。れ。若。們。そ。そ。我。身。單。と。害。怕。き。との。甚。延。縛。城門を。咸。用。く。と。後。よ。續。く。敵。ひ。る。
君子。ひ。く。ふ。徑。お。よ。う。び。況。幽。主。の。ゆ。使。價。と。と。角。門。より。入。美。や。む。不。儀。と。知。取。白。物。
と。察。ひ。れて。願。八。盆。作。飲。を。兩。聲。ゆ。立。す。嗜。す。猴。子。奴。が。月。屬。寄。隊。大。軍。す。脣
あ。あ。あ。あ。我。君。の。武。威。と。て。今。ゆ。誰。夕。憚。免。人。坐。す。老。黨。と。擇。て。使。價。あ。こ。よ。き
み。城。門。を。用。ひ。て。入。れ。せ。ん。よ。せ。て。だ。ん。い。ふ。ま。き。へ。る。そ。べ。り。え。い。ふ。ま。き。は。る。ある。
大。江。と。名。告。れ。る。夷。狗。竇。と。相。応。く。る。め。開。と。苗。門。よ。り。入。れ。ま。分。過。方。管。待。ま。り。た。
と。思。ひ。て。過。言。の。身。の。程。知。及。白。物。と。遣。り。返。せ。親。兵。衛。呵。と。ち。ら。笑。ひ。若。們。笑。ま。る。

古の取扱い人の例を思ふ。武内宿祢が年十四の時天皇行の敕詔を奉り。北陸及東方諸國と巡察して百姓の叛乱を治め。又日本武尊が元年二八老。熊襲が魁師と呼べる川上梶師を誅め。又厩戸の皇子聖徳太子の生れ。生をも聖也。聰明睿智傳稀文心神の太子。鬼道の稚郎子。鬚眉歲か。智慧廣大始く。百濟の王仁らが就て天朝漢学の開祖。遠々歎世を追ひて。菅家が五歳か。五言絶句を作む。後醍醐の八歳の宮孝順恋字の短歌あり。又武勇の揺れ。安陪貞任が獨子千代童子十五歳か。萬夫無當の勇男也。楠正行十二歳父正威の送訓と守り。既に恢復の大志あり。その源為朝源太義平源牛孺曾我箱王義朝の金王教經の菊王熱田の御所五郎丸枚舉る。違ひ。是を覗ると。才あると才無し。人の賢と不肖。老小を論せん。且我家號と大江と告る。狗賣よろ入る。若们が主と愚む墓田。溷よう出入るや。墓田の墓が溷よう出で迎る。西安せむ。大江も亦角

門より決して出入りを。その義が什麼と詰ね。それで。矢なり願八盒作腹立と。理の當然。其事ひよそ。乍らよも。先快士卒を走りて。親兵衛がられ。素藤を注進。ちつとも。故意に卒を叱り。大門を開せ。登時大江親兵衛の馬より下りて下座す。内外が找合程。八盒作相迎へて。名告と。案内が立て。その事の為体。墓田が士卒先々と鎧。くるみの三百名左右。一行が相備て。長鎧。眉尖刀。卓昇めり。或ひ弓箭。鳥銃を推乃て。專虎威を張る。親兵衛。自若として。毫毛をも。アラマサ。引け。中へお造りまで。景能の隸役。左。右。眼と配り。少。程。少。與四郎も續れて馬歩。牽入れ。城の士卒们罵り。咎め。おも漫へ。疾。半よ。と。少。與四郎冷笑ひ。諦。謐。異の折。少。が馬を。前。少。數。糞。を。せ。先。這。篠。城。の。最。中。少。來。獨。門。外。少。主。を。驚。ん。や。時。宜。と思。眾。人。る。少。せ。も。果。城。の。雜。兵。三。十。名。群。立。蒐。そ。推。戾。さん。と。鬪。く。程。少。名。馬。も。事。情。を。知。け。忽。地。お。嘶。狂。ひ。前。より。找。ひ。と。噬。倒。後。より。寄。互。

蹴返けうへする物もの禁きんむべべれが衆兵しゆへい齊そろ駿誤じゆご。憶おもひを擇えらせ。程ほど與四郎よしろう。馬うまと俱とも。突然たちまにとて中門ちゆうもんを過くわり。玄関げんかんの頭かしらを奪だつ。登時とうじ願ねが八盆作はんせい。件くだの息き。劇げきを乞こえり。苦くるさあく思おもひのう。大事だいじの前まへ。小事こまへ。愚ぐるい返まど。麁蒐じゆしゆ來き。雜兵ざつへい小目こめと注のぞ。禁きんめて脣くちばの親兵しんへい衛えい。先さきの方ほう。大室おおむろ。既すで小室こむろ。玄關げんかんの五台ごたい。登のぼ。折おり。親兵しんへい衛えいの互ふた刀とうを帶おびて。伴當ばんとうが遞たます。願ねが八盆作はんせい共とも。咎とがめ。或ある無な禮れい。作法さくほうと知し。諸侯しよこうとも。使臣しじんの者もの兩刀りょうとうを帶おびて。玄關げんかんへ登のぼる。許き。最さい。

鳥とり許き。制せい。親兵しんへい衛えい。冷笑れいじやう。然しから。知し。風ふう。人ひと。尊卑そんび。礼れい。吉凶よきよし。我君われみこみ。是房これふさ。總そうの國くに。主ぬし。墓葬田ぼくそうでん。原はら。麾下ひげか。城將じゆじょう。所領しょりょう。郡ぐんの外ほか。縱よこ。和順わいじゅん。折おり。對應たいおう。義ぎ。及およ。策さく。謀叛ぼはん。籠城らうじやう。せ。怨敵おんてき。脚方きやくがた。分ぶん。只ただ。軍ぐん。陣ぢん。作法さくほう。由ゆ。約莫よくばく。君きみの使つかひ。敵城てきじやう。小室こむろ。者もの身み。帶おび。刀とう。放はな。升あが。降人こうじん。異こと。且また。這刀なまこ。君家きみけ。重宝じゆほ。我老わがじゆ。候まわ。賜たま。權ごん。且また。身み。放はな。益ます。

あり。外ほかより。快々案内あんない。連坐れんざ。と答こた。徑へい。度ども。無む。願ねが八盆作はんせい。光度こうど。徵せい。辛から。肚はら裏うち。冷笑れいじやう。只今ただいま。何なん。主君しゆきみ。對面たいめん。折おり。猫鬼ねこき。逢まつる。鼠ねずみの像ぞう。頭かしら抬あげ。目め。口くち。喉のの。貌めい。而より。身み。書院しゆいん。陪とも。景能けいのう。與よ。四郎よしろう。俱とも。玄げん。關かん。幕まく。下くだ。今いま。奥おく。入い。親兵しんへい。衛えい。背影せいぎやう。自送じそう。心悄こころなき。地じ。伏姫ふくひ。神かみ。擁護ようご。祈念きねん。却說かくせつ。大江おおえ。親兵しんへい。衛えい。坐席ざせき。幾間いくまん。うち。過くわ。長廊ながら。下くだ。竟きみ。來くわ。也よ。坐すわ。上座じょうざ。左ひだり。右ひだり。侍し。老黨ろうとう。兩個りょうかく。奧利本膳おくりほんぜん。盛衡せいこう。浅木碗せんぼくわん。九郎くじろう。腰こし。帶たすき。餘よ。究竟きみよ。力士りきし。四十名よんじやうめい。短鎗眉尖刀たんごひげせんとう。鞘さや。除のぞ。行ゆき。侍し。立たつ。一いつ。嘉俱かき。俱とも。玄草げんそう。綴つづ。腰こし。帶たすき。餘よ。究竟きみよ。力士りきし。四十名よんじやうめい。短鎗眉尖刀たんごひげせんとう。鞘さや。除のぞ。行ゆき。侍し。立たつ。一いつ。百有餘ひゃくよ。雜兵ざつへい。弓箭火銃ゆうせんぱくじゆう。持も。持も。孫廟そん廟。下くだ。羅列られつ。玄げん。冥めい。爲ため。體たい。

齊を整そとて猛威と赫奕。素破らる打も蒐るが面魂都て一人當す。とぞ參
はるるけり。當下願八盒作へ俱ふ書院の縁頬ふ跪て寄隊の使臣大江親
兵衛。左下知より領てまわり候。と名告せられ。素藤。其方を佐らる程。お親兵衛
揖讓。お坐長袴の下遣返して詫使。乞ば勿論上席宜く用捨あべ。とぞ參
找登す。床間を鎧櫃と被半尻うち掛て正面より第一の上座お着。が素藤
主從一個とて坐て瞻仰さるひ。他。誰何。とぞ参らふ早よ外するものも。登時素
藤勃然と怒れる聲と苛立と嘆息斬心す。猴子が狂態ありふ。這奴の風人す。
ん。争ひ搦降よ。姿と勢ひ猛く。下知ある。聲共侶。お碗九郎。本膳願八盒作
兼りぬ。心り。大家蒐れと身と起せ。四下守護の力士毎咄と嗤て短兵と見ゆ
き。親兵衛と推捕稠て數さんを。那時遅し。這時速し。奇るを。親兵衛が懷
より。一道の光輝と粲爛。毛打向。兵毎の面と撲地と撻。大家。都て眼を射
容す。天訓観面。倦ても悔怠。徵。と罵責。素藤も驚。毫も怯まず。
眼と瞳ら。聲ゆり立。猴子奴幻術ありと。我刃尖か向ひ。升里を退せ。と敦園。突と
身と起。引抜く大刀。風雨段。素藤と丁と較。身と反て扇子と。おぎ
服。這と柔柱ひ。耶と聲。刀と礮と打零。素藤吐嗟と踏入て組。と找ひと引
着。頭と肩。操轡。隻足。楚と踏体。現比類。勇力。厭れて苦極。堪。素
藤。千曳の石。背ふ受る心地。おん面色。死士の如く。饑せと叫べ。吼。逼。聲

齊を整そとて猛威と赫奕。素破らる打も蒐るが面魂都て一人當す。とぞ參
はるるけり。當下願八盒作へ俱ふ書院の縁頬ふ跪て寄隊の使臣大江親
兵衛。左下知より領てまわり候。と名告せられ。素藤。其方を佐らる程。お親兵衛
揖讓。お坐長袴の下遣返して詫使。乞ば勿論上席宜く用捨あべ。とぞ參
找登す。床間を鎧櫃と被半尻うち掛て正面より第一の上座お着。が素藤
主從一個とて坐て瞻仰さるひ。他。誰何。とぞ参らふ早よ外するものも。登時素
藤勃然と怒れる聲と苛立と嘆息斬心す。猴子が狂態ありふ。這奴の風人す。
ん。争ひ搦降よ。姿と勢ひ猛く。下知ある。聲共侶。お碗九郎。本膳願八盒作
兼りぬ。心り。大家蒐れと身と起せ。四下守護の力士毎咄と嗤て短兵と見ゆ
き。親兵衛と推捕稠て數さんを。那時遅し。這時速し。奇るを。親兵衛が懷
より。一道の光輝と粲爛。毛打向。兵毎の面と撲地と撻。大家。都て眼を射
容す。天訓観面。倦ても悔怠。徵。と罵責。素藤も驚。毫も怯まず。
眼と瞳ら。聲ゆり立。猴子奴幻術ありと。我刃尖か向ひ。升里を退せ。と敦園。突と
身と起。引抜く大刀。風雨段。素藤と丁と較。身と反て扇子と。おぎ
服。這と柔柱ひ。耶と聲。刀と礮と打零。素藤吐嗟と踏入て組。と找ひと引
着。頭と肩。操轡。隻足。楚と踏体。現比類。勇力。厭れて苦極。堪。素
藤。千曳の石。背ふ受る心地。おん面色。死士の如く。饑せと叫べ。吼。逼。聲



立き絶不可呻吟にうり。倭り一程か願八盆作。本膳も碗丸郎も力士们も歎うやく。我ふ復りそ共侶ふ身を起ひ。眼睛を定めぞ。死れば。至慇心も素藤の酷く親兵衛が踏伏され。呼吸も絶え形勢危れ。大家吐嗟と駭噪を極ひ。食を思ふ。初ふ懲りそ。和郎立す。和主且試。先へ葱れと廝讓る。虞茵の訟果一多く分惑ひ。田の畔の蛙兒が似る面框咸停跂て長視て。登時素藤聲戰へ。やよ歎兵每我と枚へ命ふ代る東西を踏殺え。立事とられて答へ投頸の尋念ふ。遑あらず。保質をまえ食ふれ。一言半句も争ふぬ。皆刃と捐鋒と倒して頭を低腰を折め。何容うそとて縁頬か。出く命とさんとを願八盆作。八盆作ははく。碗九本膳力士们ま外面ふ在。雜兵も人ヨリけれど推合で繡眼鳥の像く撃び。その間も親兵衛の力士が棄て捕索の辟月近ふあり。

ける。搔食を。素藤と繫く綱て動を。左。右。傷ふ。牽着で縁頬坐る。逆徒ふ對ひて示す。され同惡の白物們。有期不及で命惜む。狂狼馬せ。丹田。よ。推鎮め。諱。我。下。也。落。此。這素藤。近江。山賊。但鳥跡六業因。獨子。初。但鳥源金太と喰。做。原是刑餘の罪人。當年。地。免れ。愚民。義。榮利。謀。小鞠谷。如。滿。家臣。免。巷。幸。弥。太。遠親。計。誘。如。滿。義。城地。奪。罪。遠。民。と。謀。赦。功。立。地。成。熟。夷。瀬。横。領。我。當時。我。惡。發。覺。初。病。親。負。我。奸。計。立。地。成。熟。夷。瀬。横。領。我。當時。我。惡。發。覺。初。病。我。奸。功。恩。免。开。我。我。奸。心。傲。舊。黨。願。八。盆。作。竊。招。寄。幫。助。于。民。虛。は。驕。極。非。分。婚。姻。宿。望。遂。我。深。恨。又。奸。計。旅。義。通。君。據。を。も。又。滿。呂。安。西。神。餘。舊。黨。并。俠。客。南。弥。六。門。を。そ。我。老。侯。富。山。犯。我。う。欲。り。う。方。惡。既。小。極。モ。渡。莫。昨。日。方。刺。客。我。那。山。生。拘。我。那。山。我。那。山。獄。

舍の殿ゑれり。柳我身。同因果の義義兄弟七名あり。その窮泥。毎富山を伏姫神。真助とぬき。とくある。就中我親兵衛仁。年四岁。又那神女。擁護。蒙り。六稔富山を生育する。今茲甫の九岁。ゑも見よ。身長まへ心術まへ。僕まで大分うなづ。誰。鞍馬を仰ぐ。神斐不測無類の神童二人。と見る。有ふ。ば。結縁の為。拜せよ。然が我。這素藤。素生と奸詐。よく知る。身單誕使。立す。皆是神女。尔教。馮。ひ。昔日唐山。秦の甘羅。年十岁。童事。か呂不當。而說て趙を使。大功あ。司馬遷。史記。下書。不載。唐人们。詩。賦。物。引て唱嘆。爲。白雲。あ。這親兵衛仁。ゆ。を。功。甘羅。と。孰與。を。开。左。見。若。も。あれ。約莫。我。義兄弟。感得。の。靈玉。あ。そ。玉。史。八行。の。文字。と。分。そ。玉。每。一。字。々。自然。と。あ。开。そ。我。持。る。仁。字。の。主。因。て。名。と。仁。と。告。り。矣。若。们。我。と。較。き。と。せ。折。光。不。撲。れて。度。失。ひ。我。靈玉。の。奇。特。き。幻。術。あ。乞。精。せ。の。這。素。藤。が。愛。然。邪。術。の。思。比。べ。欲。淺。慮。臆。跡。笑。べ。縱。素。藤。邪。術。さ。く。御。

曹司を捉り。を。り。て。計畧。を。ぬ。り。と。も。と。我。君。仁。義。の大。軍。を。攻。潰。一。発。石。を。り。く。卵。を。歎。ま。う。も。い。と。易。可。れ。も。這。城。内。駆。食。え。る。罪。免。民。尾。礫。と。兵。小。焼。れ。む。と。憐。愍。を。ひ。て。最。實。兵。を。充。計。ひ。唯。御。曹。司。と。恩。召。至。故。ま。あ。て。戻。る。若。們。愚。物。の。本。性。を。漫。ぶ。誇。り。く。我。君。を。做。事。や。下。と。侮。り。る。報。ひ。と。自。今。知。る。や。知。矣。先。非。と。悔。く。か。の。下。も。皆。是。五。逆。の。罪。人。ゑ。が。誰。う。一。人。も。饒。ま。る。刑。四。訓。蹕。と。旋。ま。鳥。首。せ。れ。る。の。よ。と。我。又。神。女。の。尔。教。小。憑。そ。仇。小。報。小。德。と。そ。と。曼。讚。信。の。仁。を。施。ま。し。若。們。生。て。今。ま。で。在。る。先。手。是。是。考。せ。ば。よ。と。御。曹。司。を。坐。ま。で。慈。悲。方。恩。免。と。請。ま。り。ね。我。市。御。陣。參。そ。幽。王。不。大。赦。と。請。ひ。ま。う。え。倘。等。の。計。ひ。あ。が。素。藤。と。首。と。て。誅。そ。首。級。と。御。陣。へ。献。せ。ん。若。們。首。と。接。ま。ね。が。ま。う。え。見。や。ち。と。ま。う。も。ど。つ。ま。う。を。ぎ。一。か。と。ま。う。と。お。ま。う。は。御。曹。司。を。送。り。ま。る。事。の。准。備。を。ま。せ。よ。我。俱。あ。る。若。黨。は。裏。小。諏。訪。の。社。頭。を。若。們。が。火。鏡。が。殿。され。る。御。方。の。近。臣。吉。屋。郎。即。是。那。折。都。て。深。瘡。付。き。御。曹。司。の。伴。當。亦。是。神。女。の。寘。助。ふ。よ。そ。蘇。生。と。稻。村。の。城。が。あ。

倭主天福神助多尼國王弓と矢と。天子對して唾吐くより。肩甲斐も毛皮白物へけ。快くせ矣。と嘆懲矣。願八盒作碗九本膳以下の免黨古と掉毛。戰を怕せ仔細を及ばず。事の趣并ふ篠城の將卒が咸降参の義と報知して。案内を義通君は算邊セントウを封ばず。單表里見御曹司義通君久しく當城ふ屏籠ヒラシロられて。慰めまつらむ。賊徒本膳碗九郎が吉屋景能と俱て來る。室の内ふ旦より一ゆき。あの日思ひ合ひも。賊徒本膳碗九郎。そぞ不_ノ伊豆山イシヤマ。とまやのうづりぐさ。城兵都て降参の事情と告もう。遽く圍固と披れ別室ふ出ハシルまわせて。儲の禪不請ハシタ登まれ。景能躬て見參を。恙みりと祝ハサウエ。然而大江親兵衛カミヒサエ。武勇大功の速す。事の由と告まらせ。本膳と碗九郎の歸降のよしをあびて。御陣へ送つまし。餘お坐を玉ひひと。茶をまわせ果子を薦め。とき勵り慰めけり。義通君の是蓋カバれり。ほどとも聞かず。のま。かれ見え。景能宣す。我那大江が人の噂ハナシを知るのみ。尚縁角ヨリカツてかの如シテ武功の下シテと思

ゆ。と恥アキひ我アタフ。時の不祥ハラハラがれ。久く賊徒ふ屏籠ヒラシロられ或城樓シマツウを推登スケルされ。責頑セムカニ懲れり。躬方アガハの士卒も嚴シキ君も専シキらシキが。然る辱スルを蒙スル。生て還スル歟ハ。もの係ハシタあを阿容アヒムと天人アヒムを見參スル。初ハと轎子カツコをうち乗スル。初ハと轎子カツコをうち乘スル。心と雪スルよ。あを。什麼ハナシある。のぞとよこす。と向て本膳碗九郎の景能カミヒサエが答スル。併ふ額カブト衝スルて。裏ハシタを。その裏ハシタを。安スル。と向て本膳碗九郎の景能カミヒサエが答スル。走りて書院シキニへ赴スル。景能カミヒサエが冷笑スル。焉ハ幼君ヒロシマを守護スル。とぞ。倭而本膳碗九郎カミヒサエの故ハシタ縁ハシタ頗ハシタあ。親兵衛カミヒサエ小ち對スル。義通君の車カミヒサエを依スル。箇様ハシタと告スル。親兵衛カミヒサエ然ハシタそと點頭スル。現大將の器ハシタ。智勇自然と備スル。今ハの坐席シマツウへ迎スル。見參スル。けれども父君の倭ハシタと知スル。胸安スルを御坐スル。まれ若們ハシタ送スルの準備ハシタを整スル。よう。中ハシタの願ハシタ八盒作及碗九郎本膳とやら。余ハシタ重立スル兵ハシタ皆回縛スル。御

陣へ參れ。縦雜兵うちとて。或へ武具と着用し。或へ腰刀と帶ると。許さず。その要は叛く
のを。先素藤うち屠戮うち。皆悉頭と刎ん後方ふ侍る力士每願八益作。
索を樹てうち成れ。那奴両個の素藤が西を資貢。舊盜也。努力を由断失く。本膳と
碗九郎おへ腰索と被て。先送りの事の準備を勤め。元快をせよ。必ずせば。力士们を
身の祟を怕れて。推辭とを爲。先願八と益作ふ。武具と脱して。縁頬うち。推下して
索を被け。又碗九郎本膳も。小々と饒を。是も亦細り。縁頬不牽居す。浩祭。
這城内を百姓們へ。素藤既に生拘られて。餘類の降参せど。守門皆抜て。四
門を成る頭人を。捕り網縛て。牽ぐ。書院の庭ふ來。然而親兵衛訴を。恐
えろ。我が車。齋の良民無をひき。素藤が駆拿され。他づ軍役ふ從ひ。寒
本意ふ。且。小る。逆將俘ふせられ。當城。かく。入り。虎よ。洩せ。よう。怡
悦ふ堪む。隨即守門の頭人们を。捕り。呈献せり。あの餘の雜兵。仇武者ふ。

事の敗れ。駭怕れて。咸副門より山路を投て。多く落山。死。告げ。親兵衛領を。开り
切ゆ。今當城か在す。若曲日。良民。多く。幾名を。と向へ答て。然ひ二三百名か。と
余。親兵衛又領を。然ひ。一百五十名。御曹司の死伴と。御陣へ送り。又一百五十名。ハ
我伴當。姥雪與四郎と。頭人。と。權且當城を成す。又素藤が。筒様々。倦ふ。と
領て。左。杉木と車の準備を。せよ。先若们が。一火の内中。で。あらぬ。方者。兩三名。を。御陣へ
走り。まよて。是も。うそ。注進せよ。その餘。這願八と。益作。も。牽頬。と。我勢折を。驚ね。又
力士们。本膳と。碗九郎と。牽。と。退り。先。轎子の準備を。と。あらぬ。方欲。と。言示せ。百姓
们。欲。と。羨て。願八益作と。受。食。守門の頭人共。侶。牽。と。皆。退り。と。力士并ふ
雜兵们。嘆息。考。皆。參。大刀も。鐵鎧も。脱。棄て。本膳。碗九と。先。立。と。皆。外面へ
出。けり。姑且。と。力士们。四五名。書院へ。か。の。來。親兵衛うち。對ひ。御曹司と。並。送
す。准备。整ひ。と。報る。と。親兵衛うち。听て。然。我。も。死。伴。先。案内。と。せよ。と。起立

毛。細り措き素藤と小児の像く腋下に抱ひて。左脇玉筒を半身。與四郎軀で走り
寄て事の歎びと舒ふども。登時親兵衛。與四郎の權且當城を留りて。守るべを旨を
言示す。又百姓们を囁き。每て卒そ素藤と遞與せ。大家豫の下知を違せず。素
藤と受拿て。杉木の杪を細着て。勝て車を推建けり。倭か程を義通君の御高少社
参ふ被ゆる礼服と。舊のとくふ装ひ。小刀と帶て。景能を従へ。其のう。親兵
衛うち對ひて。神速の大功と譽を致じて演ゆ。親兵衛の謹て歸陣と祝して。稟を
や。他脚覽せ。素藤と長杉木の杪を大に登り。御陣へ牽け。倭て
君が會稽の恥と雪る不足りぬべし。快々坐ませゆ。と。不義通矢はうち點
頭立ゆ。百姓们があらゆて。多く轎子と昇寄せけり。畢竟里見御曹司父の
陣營を送還され。後の説話甚麼をや。升と次の巻ふ解分るを聽候か。

南總里見八犬傳第九輯卷之八終

